

旭川・りんくるラインオープニングイベント

勝山・久世・落合を行ったり来たり



木テラスを出発



勝山地域の新町商店街を走る



美作落合駅を出発



駅の中で健康チェック



久世地域の下町商店街も賑やか

市政トピックス TOPICS

4月27日、勝山・久世・落合の3地域を結ぶみち「旭川・りんくるライン」のオープニングイベントが開催されました。約180人の参加者が集まり、中国勝山駅、久世駅、美作落合駅を出発点に、サイクリングやノルディックウォーキングなどを楽しみました。その他、各駅で健康チェックが行なわれたり、各地でまち歩きイベントやさまざまな出店があったりと、周辺は、自転車に乗る人や歩く人、買い物をする人などで賑わいました。



第8回真庭圏域消防操法訓練大会 日頃の訓練の成果を披露



4月29日、真庭やまびこスタジアムで、第8回真庭圏域消防操法訓練大会が開催されました。ポンプ車操法の部、小型ポンプ操法の部ともに8チームが参加し、訓練の成果を披露しました。この大会は第66回岡山県消防操法訓練大会の真庭地区予選を兼ねており、ポンプ車、小型ポンプともに1位の湯原方面隊と2位の久世方面隊のチームが5月19日に県の大会へ出場しました。中でも湯原方面隊がポンプ車操法の部で5位に入賞と健闘。真庭市消防団は5年連続入賞となりました。



市長室から こんにちは!

「2040年問題」に適切に対応する!

最近、「2040年問題」ということが盛んに言われていますが、市民の皆さんはご存知でしょうか?

2040年になると、人口が1億1千万人位まで減少するとともに、戦後の団塊の世代が90歳代になり、その子ども団塊ジュニアが65歳を超えて高齢化が頂点に達し、東京都の高齢者が100万人を超えるなど大都市が膨大な高齢者を抱えることとなります。一方、社会を支える世代(生産年齢人口(15歳から64歳))が少なくなり、世帯では、一人である単独世帯が40%に、75歳以上の世帯が約4分の1になります。

こうして、農山村では集落が消滅し、維持が困難になり、都市では空き地が目立つなどスポンジ化が進みます。また、今までに作った多くの道路や施設の老朽化が進みます。医療費と介護費が大幅に伸び、現在140兆円の社会保障給付費が190兆円に膨れ上がるという予測もあります。

これが「2040年問題」で、このように随分暗い将来予測が出ていますが、私は悲観ばかりしてはいません。AI技術の発達、社会経済の仕組み、労働の質を変えるなどの取り組みをし、次世代のための教育の在り方を変えていけば、展望ある未来を開くことができると確信しています。

地方自治の分野でも、2040年問題に対応していく議論が活発になっています。国の地方制度調査会で議論されており、私も意見陳述をしました。先月も東京で開催されたシンポジウムにパネラーとして参加しました。

真庭市の行政責任者として、このような場での成果を活かし、議会や市民の皆様と議論や協議をしながら、先手を打ち、ふるさと真庭市が永続的に発展する基盤づくり、まさにSDGsを着実に実行してまいります。



子どもたちの声援を受け交通安全パレードに出発

真庭市オープニング広報パレード出発式 春の交通安全県民運動

5月10日、落合総合センターで春の交通安全県民運動真庭市オープニング広報パレード出発式が行われました。真庭交通安全協会、真庭市交通安全母の会など関係団体約120人が出席した出発式では、落合子ども園の子どもたちが「僕たち私たちが駐車場で遊びません。運転手さんもお交通ルールを守って安全運転をしてください」とメッセージを発表し、その後交通安全意識の高揚を図るためのパレードに出発しました。



楽しくコミュニケーションを学ぶ

新規就職者激励会 「コミュニケーションをしよう」

5月21日、真庭市役所で新規就職者激励会が開催され、市内の事業所などに就職した82人が参加しました。記念品として地域の特産品が贈られたほか、講師におかやまアノウンス・ラボの浅越昌子さんを迎えて「コミュニケーションをストレッツ」と題した記念セミナーも行われました。セミナーの中で、新規就職者は自己紹介をしたり、相手の話を聞いたりしながら、コミュニケーションについて学びました。